



(認定 NPO)NPO 法人ふくしまNPOネットワークセンター通信 No.41

のっぽの手

◆◆◆◆ 注目記事 ◆◆◆◆



ふくしま市民活動フォーラム2012

第2回まちの駅講座開催

市民団体の財政基盤強化講座終了

2012年2月発行



「ふくしま市民活動フォーラム2012」

～開催の取り組み～

ふくふくプロジェクト情報センター事務局長 早川 哲郎

被災者支援や地域復興に向けて活動するNPOや市民活動団体の連携を拡大、強化することを目的に、2月4日「ふくしま市民活動フォーラム2012」が開催されました。運営に関わった一人として、このフォーラム開催までの経緯を簡単にまとめたいと思います。

これまで市民活動のアピールやそれぞれの団体の活動発表の場として市民活動フェスティバルが開催されてきましたが、その運営の「中心人物」がふくふくプロジェクト幹事会のメンバーと重なることから、昨年11月、フェスティバルの開催をどうするか協議が行われ、祭典的な色彩のフェスティバルではなく、支援や復興に向けて成果が残る催しにすべきとの意見でまとまりました。

その時点でふくサポが主催するパネルディスカッション「行政と協働で行う災害復興計画」の開催が予定されており、テーマが重なることから、同時開催で行うことや分科会形式でのテーマ別ディカッションを行うとの大筋がまとまりました。

ふくサポの登録団体やこれまでフェスティバルに参加した団体に広く呼びかけ、12月10日ふくふくプロジェクトの総会を開催し、フェスティバルに代わる今回の催しについて、開催の方法や参加希望についての協議を行い

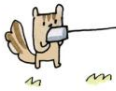
ました。その際に出された意見は、自分たちの活動を市民にアピールする機会にしてほしいというもので、これまでのフェスティバルの趣旨を踏襲したものでしたが、幹事会での開催内容を変えることなく決定され、その結果7つの団体が分科会を企画運営することとなったのでした。

その後開催までに5回の運営委員会を開催し、復興に向けた認識を共有するために「フォーラム宣言」採択を行うことや福島市の共催を得るなど、短期間で準備が進められました。特に、通常のPRとは別に運営団体が口コミによる来場呼びかけを強化することになっていたため、参加呼びかけも大切な開催準備でした。

当日は、前半のパネルディスカッションでは定員に近い約200名の来場者があり、充実した開催となりました。



▲パネルディスカッションの様子



ゆるやかな「まちの駅」ネットワークの構築をめざして



～第2回まちの駅講座の開催報告～

1月27日(金)(18時30分～AOZ)「第2回まちの駅講座 日々はまちの駅～協働がこうして役に立ちました～」を開催しました。当日は雪のため渋滞の影響で遅れた参加者もありましたが、スタッフも含め50名の参加でおこなわれました。ありがとうございました。

今回は、協働の視点からまちの駅ネットワーク構築の実現をともに探るディスカッション内容になりました。

市民主体の「まちの駅」が望ましいとされながらも、行政もきっかけづくりやスタート時の支援をおこない、協働することも大切なポイントであることを確認しました。

今回の講座をとおして、各施設が「まちの駅ネットワーク構築」の実現可能性を高めるとともに、復興支援をしっかり視野に入れたまちづくりと観光推進の担い手になっていくことを期待しています。

×××第2回まちの駅講座◇発言語録◇×××

全国まちの駅連絡協議会

「東日本大震災復興支援ふるさと物産市」

参加報告



○ふくしまふるさとフルーツ便実行委員会
実行委員長 作田謙太郎

農産物のピンチをチャンスに変えて、これからも福島
の果物の美味しさを全国アピールしていきたい。



○まちの駅くだもの畑／駅長 磯部健一
「まちの駅」に出会い、ふるさと物産市に参加
することになり良かった。まちの駅に登録したので、パイ
プを繋ぎながら全国にPRしていくチャンスと捉えて頑
張っていきたい。

パネルディスカッション

「日々はまちの駅」

～協働がこうして役に立ちました～



○鹿沼市経済部／部長 福田義一

栃木県鹿沼市から福島までJRで50分。
雪の降らない穏やかな土地で、野菜は何でも採れます。
「まちの駅」のいいところは、国、県、市に関係なく自由
であること、そしてヒト・カネ・モノが対等に連携できる協
働だということです。昨年3月19日に飯館村をメイン

に避難者を310名受け入れました。まちの駅のネットワ
ークで700食分のトン汁とおにぎりを配食できました。

(まちの駅登録数87駅・日本一)



○見附市産業振興課商工観光係／

総括主任 田伏由夫

新潟県のご真ん中にある見附市。いろんなところに通
交流の「場」づくりをするためにまちの駅参加団体を募つ
た。目的はそれぞれにあるが、いろんな人がくつきあ
うことで広がりが出てくるのがまちの駅のいいところ
です。まちの駅は接着剤のようなもの、というふう
に考えています。

(まちの駅登録数35駅)



○まちの駅ネーブルみつけ／

代表 鶴頭明男

「まちの駅フェスティバル」を開催して物販もおこな
っています。収益金の一部で寄付や支援活動をおこな
っています。日ごろは、まちの駅の仲間と自分たちの持
っている技術をまちの方に教えています。先日も私はロ
ールケーキの講習会を開き交流をおこなっています。



○福島市商業観光部観光課／

主査 深谷淳

神戸に視察に行きました。震災があつて市民活動が
盛んになったということを聞いたことが印象に残りました。
考え方をチェンジしてムーブメントのきっかけになれば
いいと思っています。



○ふくしま情報ステーション

所長 齋藤美佐

まちの駅をとおして官民の協働のお手本になればい
いと思っています。復興を視野に入れて、共鳴できる
仲間づくりができればいいな、と願っています。

●コーディネーターのコメント



○福島大学人間発達文化学類／

教授 牧田実

まちの駅のいいところはとてもシンプルだということ
です。ネットワークというより人のつながりで、これは大きな
地域資源であり、意味を持っています。福島もできるこ
とからはじめられるのではないのでしょうか。

(報告：ふくしま情報ステーション 齋藤美佐)

※まちの駅＝無料で提供できるイス、トイレ、地域の情報の3つでおもてなしできる場所は、どこでもまちの駅に登録できます。



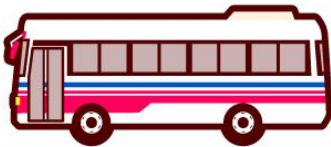
市民が集う『朝日座』
～春の復興映画祭を準備中～

私の所属するセンターが、南相馬市の市民団体と共同で被災地支援のイベントを計画しています。先日は福島大学の学生が現地「朝日座を楽しむ会」と一緒になって、閉館した映画館「朝日座」のリニューアル塗装工事を行いました。本番は3月24日、山田洋次の名作『同胞』の上映と合わせ、お楽しみ抽選会、学生グループによるコンサート、昼食会など、盛りだくさんになりそうです。

「朝日座」は、現地の庶民文化の拠点として貴重な存在になりえる地域分利財だといえます。仮設住宅にお住まいの方もそうでない方も気軽に参加できるよう、大型バスを回して会場にお招きする予定です。福島市方面に避難しておられる南相馬市民もおられることでしょうか。この機会に地元で楽しい1日をご提供はいかがでしょうか。

このイベントが南相馬市の復興の一助となることを願いながら、福島大学の学生たちが大いに張り切っていますので、ご期待ください。(なお、この事業は日本財団の助成によって行われるものです。)

(報告:ふくしま NPO ネットワークセンター
理事 清水 修二)



「見えにくい地域ニーズ」を
「皆の願い」にして多様な財源調達に挑戦

福島県主催の「地域活動団体等への寄附・融資サポート事業」は、8回の講座と6回の相談会を、県内8ヶ所で開催し終了しました。この4月1日から、改正税制とNPO法人法が施行され、寄付文化社会の到来を促進させる画期的な変化がもたらされます。

この事業目的は、①地域団体やNPO法人が、助成金や補助事業に頼らず、自主事業で収益をあげられる事業者として体質の改善をめざす。②3000円以上の寄付者を100人以上集められる「開かれた認定NPO法人」取得に向けた準備を整える。③大震災と放射能汚染で衰退している地域の復興に向けて、面倒くささからず、「見えにくい地域ニーズ」をすぐに「皆の願いに仕立て」、「即行動に移してゆくスピード感ある夢実現人」の輩出に挑戦することです。

参加者の主な感想には、NPO が儲けて良いとの言葉が印象に残った。資金調達より以前に、NPO が法人の目的と目標を設定し、達成手段の内容を含めた意見の合意形成をすることが、最も重要だと分かった。資金調達と運営の戦略的な考え方を学べた。認定NPO取得の具体的な取り組みをもっと教えて欲しかった・・・などでした。

間もなく事業実施の報告冊子が発刊されます。希望者には、無料で進呈いたします。

(報告:ふくしま NPO ネットワークセンター 半田節彦)



チャイルドライン受け手養成講座始まる!!

報告:ふくしま NPO ネットワークセンター 理事 遠藤ヒロ子

福島県の子どもたちのために「電話でつながるこころの居場所」づくり、チャイルドラインこおりやま受け手養成講座が平成24年1月から始まりました。今までに行われた研修会の内容と、これから行われる内容等を報告いたします。日程は、下記の表の通りです。どなたでも参加可能ですので、ご参加をお待ちしております。

日程	テーマ	講師
1/21(土)	チャイルドラインとは/チャイルドライン設立の主旨	チャイルドライン支援センター講師
1/29(土)	児童相談所から見える子供の現状/その対応とネットワーク	大宮廣幸(県中児童相談所長)
2/5(日)	子どもの権利/子どもへの支援活動	多田 元(弁護士)
2/11(土)	傾聴・受容/電話対応のスキル・ロールプレイ	横山美香(スクールカウンセラー)
2/19(土)	不登校経験者から/子どもの現状ほか	須永祐慈/若月ちよ
3/4(日)	子供の育ち/幼児教育の現場から	大宮勇雄(福島大学教授)
3/17(土)	チャイルドラインのきまりと受け手の心得	チャイルドラインこおりやま運営者

お問い合わせ先 チャイルドラインこおりやま 設立準備組織 こおりやまチャイルドラインをつくる会

TEL 024-954-3890 FAX 024-954-3891 Email info@cl-koriyama.org Web http://cl-koriyama.org

ろうきんのボランティア数大幅増加 ～2011 年度終了報告～

本年度も当センターでは、「東北ろうきんボランティア・パートナーシップ事業」に取り組んだ。福島県としての受入は 14 名で、昨年度より減少したものの、大きな時系列的流れとしては明らかに増加傾向が認められる。県別にみると、岩手、宮城、福島の 3 県は、数の上では低調であった。その理由としては、被災県としてさまざまなプロジェクトが立ち上がり、集中してじっくり取り組めなかったところにも一因があるのではないかと推測される。

しかし、6 県全体の受入数としては 170 名を超えるほど盛況で、東北ろうきんでは予算の制約からストップ規制を掛ける事態にまで至った。一時、事業の継続が心配される時期もあったが、継続は力なりという言葉があるように、ここにきて本事業も定着してきた感がある。

(報告: 福島 NPO ネットワークセンター
理事長 星野 瑛二)

ふくしま元気市民活動助成金 ～活動中間報告～

NPO 法人 市民後見サポートの会 講演会と個別相談会の事業を計画していますが、中間報告です。

開催は4月7日(土)、こむこむを会場とし、講師には筑波大学法科大学院教授の上山泰先生をお迎えします。講演の主旨は次のとおりです。

高齢者が地域で自立して生活が営まれるように、医療、介護、生活支援サービス等が提供される「地域包括ケアシステム」の実現に向け取り組みが進められていますが、そのなかで役割が強まると考えられる市民後見人の養成と支援の体制を、自治体と専門後見人がいかに作り上げていくかがポイントとなります。講演会を通じ、関係者が各々の立場から理解を深めて「地域包括ケアシステム」がスピードをもって推し進められることを期待します。

◆会員募集&寄付のお願い◆

ふくしま NPO ネットワークセンターは、NPO・市民活動団体の支援を目的に活動をすすめています。地域社会の問題や課題に取り組んでいる市民活動団体の“元気”と“勇気”を応援します。皆さんも、私たちとともにより良い市民生活をつくりましょう。

- 入会／正会員・年間1口 10,000 円／準会員・年間1口 5,000 円／営利組織 5口以上
- 寄付／当法人は「認定 NPO 法人」です。寄付者の方の所得税、法人税の課税について、寄付控除の特例が認められた団体です。

※詳しくは、ふくしま NPO ネットワークセンターまでお問い合わせください。

編集後記

春の足音が聞こえる時期になってきましたね。昨年はお花見どころではなく、いつの間にか春が終わった感じでした。



今年は思う存分、心の底から花を楽しみたいと思っています。

(事務局・大山亜紀子)

今年には子供が小学校入学です。私も入社して5カ月。いろいろな仕事を通して、日々勉強中です。子供と一緒に



成長できる年になると良いですね！

(事務局・根本 靖子)

- 福島市より受託、運営している施設

○福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち 3F

TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560

URL <http://www.f-ssc.jp> E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp

○まちの駅 ふくしま情報ステーション

〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 1F

TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027

URL <http://www.machi-fukushima.jp>

E-mail info@machi-fukushima.jp

- 編集・発行: NPO 法人ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8034 福島市置賜町 1-29 佐平ビル 8F

TEL 024-528-1211 FAX 024-528-1218

E-mail center@f-npo.jp URL <http://www.f-npo.jp/>